

## [005] 九州大学低温センターだより表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/24690>

---

出版情報：九州大学低温センターだより．5，2011-03．九州大学低温センター  
バージョン：  
権利関係：

## 巻頭言

九州大学低温センターは平成 18 年 4 月に学内共同研究施設として設立されましたのでもうすぐ 5 年が経過しようとしています。平成 19 年には伊都地区センターの建物が完成し、ヘリウム液化機等寒剤供給設備が導入されて伊都地区にも寒剤供給が行われるようになりました。低温センターが主催する保安講習会への参加者も年々増加し、今年度は 1,100 人を超える教職員・学生が受講されました。これは九州大学の寒剤利用研究や低温研究が非常に幅の広いものであることを示しています。

理学部等の伊都キャンパスへの移転は平成 26 年に予定されており、理学系総合研究教育棟の設計が始まっています。箱崎の極低温実験室は伊都地区センターへ増床移転する予定になっており、その設計についてのヒアリングも開始されています。低温センターから理学研究院までのヘリウム回収配管や理学系総合研究教育棟のヘリウム回収ステーション等のインフラについても環境安全推進室の助言を得ながら施設部と検討を始めています。

理学研究院が伊都キャンパスへ移転すると、伊都地区内での寒剤利用は大幅に増加します。低温センターのヘリウム回収貯蔵用の長尺ボンベカードル等の増設についても考えなければなりません。また、昨年の巻頭言で船木センター長が述べられていますように、伊都地区内での寒剤配送をどのように行うのか、理学研究院移転後の箱崎、病院キャンパスへの寒剤供給体制をどうするかについては低温センターのみならず、関連部局を含めた全学的な議論が必要です。

学内の寒剤を利用されている皆様方のいっそうのご支援を、よろしくお願いいたします。

低温センター 副センター長 和田 裕文



低温センター伊都地区センター（CE60）／超伝導システム科学研究センター（CE50）